

事業実施の方針

◆里山保全部門

*管理場所グループ

根戸城址を中心とする里山、田畑、水辺とその環境は今まさに貴重な存在になっている。この環境を活用、保全し後世につなげていくことを目的とする。

根戸城址 周辺道路の清掃、場内整備。巡視。落葉の堆肥化。枯れ枝の整理。間伐材の活用及び倒木の処理。下草刈り。森の劇場整備。隣接地への協力。立ち入りの管理等。

ミカン山 除草。施肥。防虫。剪定。収穫。植樹等。

ハス田 畦及び水中の除草。間引き。施肥。切り花募金。枯れ茎の除去。

田んぼ 水管理。機器の点検。雑草の除去。耕うん等年間を通しての水田管理。排水路管理等。

その他 他部門との連携

*個別活動グループ

・里山農教室部会

有機生態系農業を学び研究し実践する場として開講する。

受講生のなかから、里山環境の保全活動の担い手を育成することを目指す。

今年度も3チーム編成とする。農教室開始当初の人数は、大人部会 95 名、子ども部会 30 家族。

統括部門のユーティリティチームは、昨年同様、圃場の耕耘、暗渠清掃、各チームの支援など、幅広く農教室を下支えする。

子ども部会は子ども圃場・田圃で本体とは分離して作業を行うこととする。

・特別コース部会

年間 10 回の会合を開き、遠藤理事長の指導のもと、有機生態系農業を実践し学習する。

各自、約 10 m²の圃場を管理し、栽培計画と課題を設定し、年末に結果報告し、評価、考察する。

6 月には農教室と合同で埼玉県にある「あかし農園」を訪問し、バス研修会を開催の予定である。

課題作物の「さといも」の栽培を行い、11 月のそば祭りの時に品評会を実施の予定である。

・ハーブ部会

昨年度同様、レモングラスの育成・乾燥・販売と、ニンニクの育成・発酵・販売を計画中。さらに、新入部員が増えたため、圃場を整備して、種々のハーブを育成させる予定である。

・養蜂部会

日本みつ蜂飼育の基本技術を習得することを目指す。

チームリーダー制の下、全員参加の活動を目指す。

会員に、はち蜜、蜜ろうクリームを潤沢に提供できるように努める。

・竹教室部会

第四期生の最終年度で、六つ目編籠を早めに完成させ、最終課題筏底盛籠の作成に取り組みます

・子ども部会

以下の活動を行う。

子ども畑と子ども田んぼで作物づくり。

根戸城址の森の整備と無煙炭化器による炭作り。

子どもエリアの遊び場づくり。(可能な範囲でキャンプ)

イベントの企画運営

生き物マップづくり。

・そば勉強会

・月 1 回の開催を計画するが、新型コロナウイルス感染状況によっては中止とする。

◆遊休農地活用部門

*遊休農地対応グループ

- ・今年度は栽培圃場を2か所増やして、景観作物を栽培し、農地保全を図ると共に手賀沼周辺の景観と環境を守る活動を行う。
- ・景観作物栽培圃場は以下の4圃場
船戸圃場、宮前沼東アート圃場、宮前沼西アート圃場（新）、花和下圃場（新）
- ・新しい圃場である宮前沼西アート圃場は排水対策を、花和下圃場は酸性土壌対策を講ずる。
- ・栽培作物は5～8月がひまわり、10～3月が菜の花を栽培する。
- ・公開イベントは船戸圃場で、7月の「ひまわり迷路とクイズに挑戦」は開催せず、3月に「菜の花畑散策と頭の体操」を4日間開催する。
なお、新型コロナウイルス感染状況によってはイベントを中止する。
- ・宮前沼中間圃場は当面は草刈り管理をおこない、景観作物の栽培が可能かどうか様子を見る。
- ・栽培をしたひまわりから種子を取り、搾油をしてひまわり油を得る。
- ・景観作物栽培は我孫子市の「手賀沼沿い農地活用補助金制度」の申請を行い実施する。
- ・宮前田圃では苗づくりの段階から工夫を凝らし、収量の増加を図り、遊休農地活用活動に参加した人々に出来るだけ多くの現物支給を行う。

*新規就農者支援グループ

- ・新規就農希望者が現れた場合は、市・県と協力して農業者として自立できるよう援助する。

◆事務局部門

*事務局グループ

- ・各事業部門が存分に活動できるようバックアップする。
- ・地域住民・地域諸団体との連携を強め、手賀沼トラストの活動をいっそう理解してもらい、遊農チームへの参加・イベントへの参加などを呼びかける。
- ・トラスト正会員、協力会員、メルマガ会員の募集を積極的におこなう。
- ・託された農地で、米をつくり、景観作物を栽培し、地域の方がたの信頼を勝ち取る。
- ・遊農チーム（GMT65）と現物支給制を拡充・維持し、会員みずからが作ったものを消費することがそのまま里山保全につながる体制の確立を目指す。
- ・トラクターの公道走行時の保険など、必要な保険に加入し、安全管理、リスク管理に努める。
- ・農業機械の実習・講習をとおして、機械を安全に使い、効率的に作業ができるよう努める。
- ・新型コロナウイルスへの対応を的確に行い、クラスターの発生源にならないよう努める。同時に、引きこもりがちになる高齢者や子どもに活動の場を提供することにも努める。

交流グループ

- ・会員相互並びに一般市民との交流の場として田植え、かかし祭り、稲刈り等を実施する。
- ・飲食を伴う早苗饗、そば祭り、餅つき大会のイベントについては、理事会で定めた新型コロナウイルス対応方針に沿って、理事会での協議を踏まえて開催の可否を判断する。
- ・トラストサロンを開催して、会員同士、あるいは他団体、行政、事業者と自然環境や農について学び、情報の共有化を図る。
- ・他団体との連携については、トラスト活動に支障のない範囲で積極的に行う。

◆総括計画

・地元で生きる・地元を活かす

手賀沼トラストの活動域、我孫子と柏の市境には、自由な時間をふんだんに持っている定年退職者、後継者がなく荒れていく田畑を嘆く農業者、子どもたちを自然に触れさせたいと考えている若いパパママがいる。

私たち手賀沼トラストは、子どもたちには土との触れ合い、豊かな森の保全活動を、定年退職者には里山農教室で野菜作りと仲間作りを提供し、さらにお百姓に替わって稲やヒマワリを育てて農地を保

全する。

子どもから老人まで、地元で汗をかき、地元で楽しむ、そして緑豊かな地元を創る、こんなスローガンを掲げてさらに前進したい。

・**新型コロナウイルスに打ち克つ**

猛威をふるう新型コロナウイルスに最大限警戒しながらも、地域に生きる・地域を活かすNPOとして、コロナ禍に打ち克つ活動を展開する。